

2026年
No. 109
10月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



多摩湖ウォーキング

5月23日(土)

ウォーキング日和に恵まれた土曜日、総勢 24 名が小平駅に集まりました。参加者の出身地は、イランやインドネシア、台湾、中国、米国、ベトナム、メキシコなど。多摩湖（村山貯水池）のある都立狭山公園を目指します。小平グリーンロード（狭山・境緑道）は、新緑が深まり始めた季節。一行は、出身地や東京近郊のお出かけスポットの話題でもち切り。中にはバードウォッチングに熱中する参加者もいます。

行程は6キロメートルほどで、1時間半くらい歩きます。緑道を抜けると公園に入り、たっちゃん池を横目に歩いていくと湖の土手が見えてきます。最後に木製の階段を上り無事ゴール。記念撮影をしてから、ピクニックを楽しみました。

参加者の一人、オリンカさんはメキシコ出身。地元のメキシコシティと東京の共通点である「グリーンがある

こと」の良さについて語ってくれました。小平市をぐると囲む各緑道や玉川上水は、すでに馴染み深い方も多いかと思います。小平市民にとっては見慣れた風景ではありますが、外国人参加者たちは、口をそろえてその自然を絶賛し、母国に思いを馳せながらも、東京の、しかも近所で味わえる「非日常感」を存分に楽しんでいました。

また、このイベントは参加者と交流イベントグループのボランティアメンバーの距離の近さも魅力の一つです。短期留学生から市内で長年暮らす在住者まで、国籍も年代も様々な参加者とボランティアたちは、みな楽しそうでした。あちこちから笑い声が聞こえ、誰もがあっという間に到着したと感じていたようです。台湾出身のウーさんは、「みんなとウォーキングするのが楽しかった」と話してくれました。なるほど、難しいことは考えずワイワイみんなで一緒に歩くのも良いものです。



子どものための初級英会話と多文化理解講座が、土曜日の午後2時から行われました。参加者は市内の小学2年生～5年生の12名。今年度はイラン、韓国、マレーシア、アフガニスタン、イタリアのことを学びました。

英会話 (6月13日取材)

講師のマリノ先生はブラジル出身、東京学芸大教育学部在籍中です。あまりにも日本語が自然なので学習法を聞くと、ポケモン好きでアニメを観たりゲームをしていたら身についたとのこと。日本の中学校の英語教師、又は小学校の担任教師を目指しているそうです。

初回は“I am Marino”の自己紹介、そして“I like swimming”や“I don't like playing soccer”など絵を使って練習しました。「じゃあ、カービィの気持ちになって言ってみよう」と、子どもに人気のキャラクターを描いて想像させたり、「それめっちゃいいじゃん」と友達のように話すので、子どもと感覚が近い感じです。各自英語で自己紹介できるようになり、授業の最後に行った英語のしりとりでは皆が積極的に発言し、とても盛り上がりました。



多文化理解講座 イラン (6月13日取材)

講師は一橋大学国際・公共政策大学院在籍中のザナさん。3つのグループに分かれるようにテーブルが置いてあり、その上に模造紙とペン、写真が配られます。食べ物、観光地、日本と似ているところと違うところ、に関する写真で、ザナさんが説明したことを模造紙に書いて発表する形式です。



ザナさんは各グループを回って、「モスクって聞いたことある？」などと問いかけ、子どもが知っていることを答えると、「そう。すごい」と必ず褒めた後、詳しい説明を付け加えます。「神社みたいなところで、みんながお祈りする場所なの」と似ている例を出すので想像しやすく、ゆっくり包み込むように話してくれます。やさしい話し方なのに子どもたちがよく聞いている様子は、とても印象的でした。

発表はグループ毎に前に行っていました。写真を貼って文字やイラストを描いた模造紙を見せながら、マイクを持って説明します。子どもたち全員に順番が回るようになっていました。イランの文化で特に興味深かったのは、レスリング競技の前の儀式で使う大きな木の板です。仰向けになって持ち上げるのですが、とても重くて、レスリング選手のように筋肉のついて

いる人しか持ち上げられないそうです。また食文化では、お肉が多く野菜が少ないため、脂っこいものを食べた後にレモンスライスを食べてスッキリさせるとのことでした。

子どもたちは遠いイランという国に興味津々でした。知らなかった習慣を理解し、お互いの違いを受け入れて、子どもたちが平和に共存する気持ちを育ててくれたらいいなと思いました。

多文化理解講座 イタリア (7月11日取材)

講師は一橋大学(心理学専攻)に留学しているトムさん。加えてイタリアから留学している友人3人がお手伝いに来てくれました。4人とも今年3月に来日し、8月には帰国するそうです。トムさんは、まだ日本語を勉強中ですが、講師を引き受けるという前向きな意欲に感心しました。

子どもたちは、早速3グループに分かれ、イタリアの風景、食べ物、お祭りの写真を見ながら講師の皆さんに色々聞いていきます。そして分かったことを模造紙に書いていき、発表に備えます。今回で5回目のためか、子どもたちも要領よく進めていました。

さて最後にグループごとに発表。風景では、ローマ、ミラノ、ベニス、シチリアなど、いくつかの都市を地図で示して説明しました。コロッセオは、2000年前に作られ、今ではコンサートに使われることも分かりました。

食べ物では、ストロベリークッキー、アランティーノ、ケーキ、ピザ、ティラミスなどの写真がありました。最初の発表者は、「ティラミスは日本にもあるか」など参加者に質問するという手法をとった子もいました。アランティーノは中に具の入った揚げ物パンですが、講師は、日本のおにぎりみたいなものだと言っていました。

お祭りでは、有名なサンレモ音楽祭が中心でした。日本の紅白歌合戦のような催しで、優勝は投票で決めるそうです。今年はオリンピックがあったため、3月に開催されたとのことでした。

発表が終わり、最後にあいさつをして一連の講座は終了しました。英語の基本とともに、5か国の文化などを学習できました。これが一つのステップとなり、興味が広がっていくことを期待するばかりです。



こども日本語・学習支援教室

現在大学3年生の私がボランティアとして活動しているこども日本語・学習支援教室についてレポートします。(Y.N.)

こども日本語・学習支援教室は、外国にルーツをもつ小学1年生から中学3年生までの子どもを対象に、初歩の日本語や学校の勉強をサポートする場です。また、子どもたちにとって安心して過ごせる「居場所」の一つとなることも大切にしています。

私が小学校低学年チームで活動を始めた当初は、多様な文化的背景をもつ子どもたちへの学習支援が初めてで、接し方や教え方に戸惑うことがありました。実際に接してみると、得意・不得意や、集中の仕方、反応は一人ひとり違います。そこで、過去の指導報告や同じチームのボランティアからのアドバイスを参考にして、まずは子どもたちの個性を知ることから始めました。その上で、学習内容や問題の難易度、声の掛け方を工夫していきました。

ある子どもとひらがな・カタカナの学習をした際、形の似た文字(「ぬ」と「め」、「ツ」と「シ」など)を書き間違えることがありました。そこで、文字だけを繰り返し練習するのではなく、身近な単語からはじめ、絵や実物、発音と結び付けながら、文字に親しんでもらえるようアプローチしました。ただ暗記させるのではなく、楽しみながら細かな違いに目を向けてもらうことで、少しずつ正しく書ける文字が増えていきました。このような子どもの成長を間近で見守れることは、この活動の大きな喜びです。

大人にとっての「当たり前」も、子どもにとっては一つひとつが初めての出会いです。子どもの「なぜ?」に向き合うことで、私自身も普段何気なく使っている日本語や知識を、改めて見つめ直す機会になりました。こうした経験を重ねる中で、学習支援とはただ問題の解き方や知識を教えることだけではないと感じるようになりました。子どもがどこで困っているのかを見つけ、その子に合った方法を一緒に探すことも大切な支援です。

子どもたちと机を並べていると、教える側である私自身が「なるほど」と気づかされることがたくさんあります。また、この教室には幅広い年代の様々な背景を持った人たちがボランティアとして集まっています。活動の中で意見を出し合ったり、アドバイスを頂いたり、それぞれの姿勢や取り組みを学ぶことも、私の大きな糧になっています。

これからも、子ども一人ひとりの個性やペースを大切にしながら、一緒に考え、一緒に学ぶ姿勢を忘れずに、子どもたちの小さな変化や挑戦を支えられる存在でありたいと思います。



ベトナム料理教室 -世界の料理-

8月29日(土)
津田公民館

ベトナム料理教室が津田公民館で開催され、ボランティア5名を含む約20名が調理室に集まりました。講師は来日して6年目のクォさんとパートナーのビエンさんです。メニューは、チュンガーヌオンと生春巻き。生春巻きは日本でも馴染みのあるベトナム料理ですが、チュンガーヌオンは、卵の殻の中に味付けした卵液を戻し、焼き上げる屋台料理の一つだそうです。

ボランティアは、予算に見合った食材を用意し、試作や打ち合わせを重ねて本番に臨みます。今回は、チュンガー

ヌオンを作るのに30分オーブンを使うため、効率的な段取りと時間配分が求められていたようです。料理方法に迷っているグループには、ビエンさんがすかさずサポートにつきました。生春巻きは、巻いたらラisperーパーが硬くならないうちに食べたほうがよいので、チュンガーヌオンを待つ間、パクチーの香りがあふれる出来立ての味を堪能しました。

終盤に感想と質問タイムがありました。ぬれたレタスでなできるようにラisperーパーを戻す方法に参加者の多くが感心していました。また、ベトナムでは春巻きにドクダミを入れるそうですが、と参加者の一人が尋ねると、クォさんはドクダミが好きで巻いて食べています、という回答に驚きの声があがりました。

この日の料理教室で印象的だったのは、参加者が横断的につながり、交流を深めていたことです。インドネシア、中国、ブータン、ベトナム出身の日本語教室の生徒や講師、多摩湖ウォーキングの参加者、同料理教室の講師経験者等幅広く集まり、料理と食を介してお互いの文化やその人を知る。このようなソフトな人間関係の築きから小平や地域が活性化していく可能性が感じられました。



事務局長就任にあたり

事務局長：片桐 英樹

皆様、はじめまして！この度、KIFAの事務局長に就任いたしました片桐（かたぎり）です。皆様と一緒に活動できることを、とても嬉しく思っています。

私はこれまで、小平市の財務担当部長として財政の舵取りや事務改善に携わり、定年退職後は社会福祉法人にて、地域福祉の現場や組織経営を支える仕事をしてまいりました。これまでの経験を活かした「市からの補助金を獲得するためのメリハリある予算要求」や組織経営の視点は、これからのKIFAの財政基盤を強くし、皆様の持続可能な活動を支える大きな力になると確信しています。

いま、小平市に暮らす外国人市民の数は増え続けており、私たちの街は多様な文化に溢れた場所へと進化しています。それに伴い、当協会に求められる役割やニーズも日々変化しています。

日頃から協会の活動を力強く支えてくださっているボランティアの皆様には、心より感謝申し上げます。皆様の温かい活動こそが、KIFAの一番の宝物です。これから

さらに変化していく地域の新たなニーズ（特に生活の土台となる『基本の日本語をしっかりと学べる場所づくり』や、会話を通して、『地域とつながる日本語』を広めること）に対しても、ぜひボランティアの皆様と一緒にアンテナを広げ、柔軟に挑戦し、対応していきたいと考えています。

福祉の現場で培った「人に寄り添う視点」を大切にしながら、ボランティアの皆様がより活動しやすく、外国人の利用者の皆様がより楽しく学べ、参加できる環境づくりに全力で取り組みます。

まだまだ着任したばかりで至らぬ点もございますが、一日も早く皆様の力になれるよう、一生懸命努めてまいります。事務局で見かけた際には、ぜひ「片桐さん！」や「事務局長！」とお気軽に声がけいただき、皆様の率直なアイデアやご意見をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。



小平市国際交流協会(KIFA)公式SNSをフォローしてください。KIFAの活動や、外国人に役立つ情報を発信しています。

Instagramも始めました！

Facebook

<https://www.facebook.com/kifa.kodaira/>



Instagram

https://www.instagram.com/kifa_kodaira/



これからの行事・講座予定

- ◎交流イベント 10月3日(土) 巻き寿司
- ◎多文化理解講座in English 10月31日、11月7日、14日 土曜日(全3回)
- ◎ボランティア連絡会 12月5日(土)・2027年2月13日(土)
- ◎多文化カフェ(外国人対象) 11月15日(日)・2027年1月17日(日)・3月14日(日)
- ◎立川防災館バスツアー 11月13日(金)
- ◎小平市日本語発表会 12月19日(土)
- ◎小学校準備教室(外国にルーツのある子ども対象) 2027年1月～3月
- ◎小学校入学相談会 2027年3月

※詳しくは、KIFAのウェブサイトまたはSNSでご確認ください。

編集後記

毎年のように日本を含む世界各地で大規模な災害が起こり、ニュースで見聞きする度に胸が痛みます。今後確実に増加すると見込まれる地震や気候変動に起因する災害に対処するための効果的な戦略を策定する必要がありますが、まずは甚大な被害を受けた方々の救助活動や復旧、復興が早急に進むことを心から願います。(C.A)

2025年度決算および2026年度予算

2025年度収支決算(2025年4月1日～2026年3月31日まで)および2026年度収支予算(2026年4月1日～2027年3月31日まで)の内訳

※詳しい収支決算・予算をご覧になりたい方は、KIFAウェブサイトの「KIFAとは」のページ下部「情報公開」をご覧ください。

●収入の部 (内訳) (単位：円)

科目	2025年度決算額	2026年度予算額
会費収入	955,000	990,000
補助金収入	19,695,253	22,994,000
寄付金収入	20,000	20,000
事業収入	6,743,551	6,430,000

●支出の部 (内訳) (単位：円)

科目		2025 年度決算額	2026 年度予算額
事業費	多文化共生に関する事業	1,989,740	2,358,400
	国際交流に関する事業	74,367	123,600
	国際理解に関する事業	4,370,455	4,398,600
	情報、調査研究に関する事業	906,217	931,400
管理運営費		19,482,074	24,162,000



発行日 2026年10月1日
発行 一般社団法人
小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488・7509
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

